

本文（われ死なば）

（詩集『乏しき木片』による）

われ死なば尾張の原を見おろせる

伊吹の山のいただきにかばね埋むか、

われ否む。尾張の原を百千年

石と砂鉄（こがね）と流したる木曾の流れに

まかせむか。われまた否む。われ死なば

いつれにあるも、灰とせよ。われはいとはず、

薪なくは油に焼くもいとはざり、

人よ、われはただひとことをのぞむなり。

まがねなす御剣まつる子と生（あ）れて、

ひとつのねがひゆるせかし。いつれの土に

われ死すも、灰ひとにぎり、わが子らよ、

陽の熱田なる杉の根に、ひそかに撒けよ。